

熱・エントロピー科学研究センターの発足を祝して

日本熱測定学会会長・広島大学大学院教育学研究科教授 古賀信吉

「熱・エントロピー科学研究センター」の発足を衷心よりお慶び申し上げます。

同センターは、1979年4月、「化学熱学実験施設」の創設以来、「マイクロ熱研究センター」(1989年)、「分子熱力学研究センター」(1999年)、「構造熱科学研究センター」(2009年)と改組を重ねながら、40年もの長きにわたり熱科学研究の国際的拠点として実績を積み重ね、その地位を確立してこられました。これまで同センターの運営および教育・研究に専心されてこられた多くの先達の先生方に、改めて敬意と感謝を表するものです。同センターが熱科学のさらなる発展と時代に即した教育・研究を展望され、「熱・エントロピー科学研究センター」として新たな理念のもとに発足されることは、熱科学研究の中心手法である熱量測定と熱分析をその主題とする日本熱測定学会といたしましても、これからの学会の発展の方向性を考える上で多くのことを学ばせていただく機会となりました。

熱科学研究は、熱に焦点をあてたマクロな視点からあらゆる物質の物性とその変化の挙動を明らかにする基礎科学を基盤とすることは言うまでもありません。同センターは、世界最高レベルの精度と信頼性を備えた、また最先端の技法を用いた熱計測技術の開発と精密熱測定をもとにして、マクロな情報からミクロな挙動を読み解き、分子レベルでの物質の挙動を明らかにし、さらに分子レベルの物質の挙動を構造として表されるシステムと関連づけて説明する研究の深化と進化を国内外に示し続けてこられました。これは、歴代の同センターの名称に如実に表れているとともに、その研究展開の過程は、本誌「阪大化学熱学レポート」に余すところなく記録されているところで。この度、「熱・エントロピー科学」を冠した、さらに挑戦的で開拓的な研究理念のもとに同センターの教育・研究を展開され、熱科学研究を国際的に先導していただくことに、日本熱測定学会として、また熱科学研究者として大いに期待するところであり、また微力ではございますが、可能なご協力を惜しまないことを申し上げる次第であります。折しも、次世代の高度科学技術社会の在り様が議論され、科学および科学技術においてもビッグデータをもとにした人口知能をどう活用するのかが問われています。単純な考えではございますが、信頼性の高いデータとその解釈のための科学的基盤なしには、科学者であろうと人工知能であろうと正しい予測と判断ができないのは明白です。熱科学研究は、広く物質や現象を科学的に説明する基礎科学であるがゆえに、豊かで持続可能な次世代の社会を構築する上で欠くことのできない基礎研究であることを改めて自負すべきと思うところです。そのような意味におきましても、「熱・エントロピー科学研究センター」の役割と同センターへの期待は、今後さらに大きくなっていくものと思います。

「熱・エントロピー科学研究センター」のますますのご発展を祈念して、祝辞とさせていただきます。

(Nobuyoshi Koga, President of the Japan Society of Calorimetry and Thermal Analysis
& Professor of Graduate School of Education, Hiroshima University)